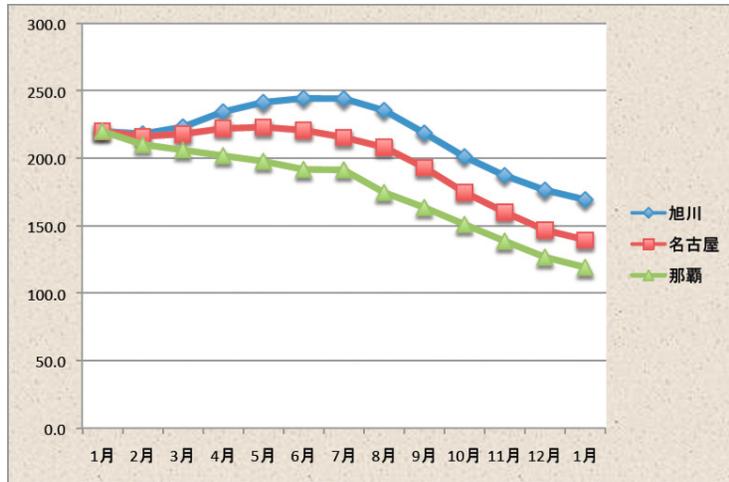


誤った知識 4

タイヤの点検 『なぜ最低月に1度』の理由1

タイヤのゴムから空気（酸素・チッ素）が自然に漏れる。



しかし、気温の影響を大きく受ける。
地域によって空気圧の低下は違う。

旭川の場合（寒冷地）

1月～4月：自然漏れゼロ + 気温の上昇分

空気圧上昇（過多に注意）

4月～7月：自然漏れ = 気温の上昇分

ほぼ横ばい（入れ過ぎに注意）

7月～1月：自然漏れ + 気温の低下分

1ヶ月で1.0 kPa ~ 1.5 kPa 低下

（空気圧不足に注意）

名古屋の場合（日本の大半）

1月～7月：自然漏れ = 気温の上昇分

ほぼ横ばい（入れ過ぎに注意）

7月～1月：自然漏れ + 気温の低下分

1ヶ月で1.0 kPa ~ 1.5 kPa 低下

（空気圧不足に注意）

那覇の場合（熱帯地域）

1月～12月：自然漏れ + 気温の低下分

1ヶ月で1.0 kPa ~ 1.5 kPa 低下

（空気圧不足に注意）

- タイヤの空気圧不足になると問題が出る。
安全性低下：制動力、旋回性能、高速道路走行時にスタンディングウエーブ現象)
燃費の低下 = CO₂の排出量増
- タイヤの空気圧が過多になると問題が出る。
安全性低下：制動力、旋回性能、バーストし易くなる、)
燃費の低下 = CO₂の排出量増
経済性低下 = タイヤの寿命が短くなる（センターが摩耗）

最適な空気圧は = 指定空気圧の±10%以内

約1ヶ月半点検を怠ると10%を超える場合がある。

空気圧不足・過多でもすぐに事故につながる訳でないが。

安全だと思い込んではいない事こそ危険である。

タイヤの点検 『なぜ最低月に1度』の理由2



釘はいつ刺さるか分からない、
また避ける事も出来ない。

釘が刺さってもすぐに抜けない。

ゆっくりと抜けるため気がつかない。

目視点検でも見つける事は難しい。

早期発見はタイヤゲージを使って空気圧を見るのがベスト。

月に1度の空気圧点検によってパツソのパンクを見つけた時の空気圧

パツソ 指定空気圧 前後220kPa

ヨコハマ ASPEC 175-65-14

平均気温 9.8度

11月30日	右前輪	右後輪	左前輪	左後輪
気温6.8度	213	198	214	215

パンクで走れなくなったタイヤ

走れないない車は危険ではない。

釘刺さりで空気圧不足

安全だと思い込んで走行出来てしまう事こそ危険である。